

# 付属資料

# 1 第3次古河市健康づくり基本計画策定のための 「市民健康意識調査」の概要（平成30年度実施）

## （1）調査の概要

### ① 調査の目的

市民健康意識調査は、第3次古河市健康づくり基本計画を策定するにあたり、市内在住の方を無作為に抽出し、統計的に集計・分析し、計画の策定に活用することを目的に実施したものである。

### ② 調査の方法

項目	乳幼児期	学齢期	思春期1	思春期2	青年期	中年期	高齢期
調査対象	0～5歳	小学5年生	中学2年生	16～19歳	20～39歳	40～65歳	65歳以上
標本数	700	716	630	600	1,000	1,000	1,000
標本抽出	無作為抽出	5年生 各校 1クラス	2年生 各校 2クラス	無作為抽出	無作為抽出	無作為抽出	無作為抽出
調査方法	郵送による 発送・回収	直接 配布・回収	直接 配布・回収	郵送による 発送・回収	郵送による 発送・回収	郵送による 発送・回収	郵送による 発送・回収
調査期間	直接配布・回収：平成30年9月4日～10月3日 郵送による発送・回収：平成30年9月14日～10月16日						

### ③ 回収結果

対象	乳幼児期	学齢期	思春期1	思春期2	青年期	中年期	高齢期	総数
標本数	700	716	630	600	1,000	1,000	1,000	5,646
回収数	411	651	543	164	239	363	581	2,952
回答率	58.7%	90.9%	86.2%	27.3%	23.9%	36.3%	58.1%	52.3%

## (2) 調査結果のまとめ

### ① 乳幼児期調査結果のまとめ

#### ア お子様のことについて

- ・『性別、年齢、住まい（居住地）』の比率については、調査票の配布時の構成比率に準じた結果となっている。
- ・『身長と体重』については、「普通」の回答が最も高く、「やせ気味・やせすぎ」については、年齢が上がるにつれて割合は増加していく傾向にある。「太り気味・太りすぎ」については、2歳以降から1割以下に減少しており、0歳～2歳未満までの乳幼児に「太り気味・太りすぎ」の割合が多い傾向がみられる。

#### イ 健康状態・健康意識について

- ・『起床時間』については、「7時」までに起きる乳幼児は5～6割となっており、「7時30分」までに起きる幼児を含めると8割となっている。
- ・『就寝時間』については、「21時」までに寝る乳幼児は全体で3～4割となっており、年齢が上がるにつれて「21時以降」の割合が増加している。
- ・「8時」までに起きて「22時」までに寝る乳幼児が多くを占めている。
- ・保護者は、すべての年齢区分において「6時30分前」に起きる割合が最も高くなっている。就寝時間では「22時～23時以降」に寝る割合が6～7割以上となっており、子どもの就寝以降に寝ている人が多いと考えられる。
- ・『健康診査・予防接種』については、どちらも「おおむね予定通り受けている（受けるつもり）」と回答している。
- ・『起床時間』と『子供の朝食摂取』のクロス集計については、「7時前」に起床している場合は91.8%が「毎日～週4回食べる」となっているが、起きる時間が遅くなるにしたがって「毎日～週4回食べる」割合が低くなっている。

#### ウ 食生活について

- ・『朝食を食べているか』については、全体で「毎日食べる」と回答した割合は乳幼児が85.6%、保護者が76.4%となっており、ともに約2割が毎日朝食を食べていない結果となっている。
- ・『お子様は保護者と一緒に夕食を食べているか』については、「毎日食べる」と回答した人は全体では79.3%となっている。
- ・『野菜の摂取』については、「毎食」と回答した人は全体で33.6%となっており、年齢が上がるにつれて毎食食べている割合が減少傾向にある。
- ・『甘味の摂取』については、2歳から摂取する割合が8割と高くなり、特に3歳以上では約9割を占めている。甘味の摂取はむし歯や小児肥満との関連もあり、正しい食習慣の確立へ向けての対策が必要である。

## エ 食育・地産地消について

- ・『食育・地産地消という言葉や意味を知っているか』については、「言葉や意味を知っている」と回答した人の割合は、すべての年齢において5割以上となっており、年齢が上がるにつれて増加傾向にある。
- ・『食育・地産地消への関心』については、「とても関心がある」「まあまあ関心がある」の割合は、「食育」は8~9割、「地産地消」は6~8割となっている。

## オ 運動について

- ・『外遊びの頻度』については、「0~3歳未満」までは年齢が上がるにつれ、外遊びをする機会が増えており、「2~3歳未満」では、54.0%となっているが、「3歳以降」では「ほぼ毎日遊ぶ」「週に3~5日遊ぶ」割合は3割程度となっている。
- ・外遊びとしては「散歩」「自宅の庭」と回答した人が多く、自宅を中心に遊ぶ傾向があると思われる。
- ・「ほとんど遊ばない」と回答した人の理由としては「時間がない」が半数以上となっている。

## カ 休養・こころの健康について

- ・『テレビや動画の視聴時間』については、「1歳」以降では視聴時間が「1時間未満」の割合は1割以下となり、「2~4時間未満」が約4~7割と多くなっている。
- ・『お子様へのスキンシップ』については、すべての年齢区分において「とっている」「まあまあとっている」と回答した割合が9割以上となっており、ほとんどの回答者が乳幼児とのスキンシップはとれているとわかる。
- ・『育児の悩みの相談相手』については、相手のほとんどを「配偶者」81.3%、「親」75.4%、「友人・知人」70.6%で占めている。
- ・『テレビ・動画の視聴時間』と『体格』のクロス集計については、視聴時間が長い乳幼児の体格は「やせ気味・やせすぎ」が多い傾向となっている。

## キ 歯の健康について

- ・年齢が上がるにつれ「毎食後みがく」割合が高くなっているが、「毎食後みがく」乳幼児は6歳でも約4割程度となっている。
- ・仕上げみがきは「5歳」までは約8割が「毎日している」となっているが、「5歳以降」は7割弱に減少している。
- ・歯科医院で検診を受けている乳幼児は年齢が上がるるとともに増加しており、「6歳以上」では約9割となっており、約7割がフッ素塗布を実施している。
- ・『むし歯の有無』については、年齢が上がるるとともにむし歯を保有する割合が高くなっている。

## ク 喫煙について

- ・『保護者は喫煙しているか』について、「父親・母親ともに喫煙」「父親のみが喫煙」「母親のみが喫煙」と回答している人の割合は、全体で4割となっている。「父親のみが喫煙」については、子どもの年齢との関連は見られていないが、「母親のみが喫煙」については、3歳以降に増加傾向にある。
- ・乳幼児が『受動喫煙してしまった場所』については、「飲食店」44.5%、「路上」42.8%、「家庭」14.8%となっている。家庭における受動喫煙のリスクもあり、受動喫煙防止のための取り組みが必要と思われる。

## ② 学齢期・思春期1 調査結果のまとめ

### ア あなた自身のことについて

- ・『身長と体重』については、「普通」が最も多く、学齢期で77.4%、思春期1で71.7%となっている。
- ・「高度やせ」「やせ」については、思春期1では6.3%と学齢期より増加傾向にある。
- ・学齢期での肥満の割合は12.3%となっているが、思春期1では5.9%と減少している。

### イ 健康状態・健康意識について

- ・『自分を健康だと思うか』については、「とても健康」「まあまあ健康」と健康であると感じている人が学齢期及び思春期1ともに8割以上(84.2%)を占めており、ふだんの自分の体調に不調を感じている人の割合は低い結果となっている。
- ・『起床時間・就寝時間』については、学齢期及び思春期1ともに約7割が「7時」までに起床すると回答しているが、就寝時間では学齢期が「21時～22時」「22時～23時」で約7割(70.7%)なのに対し、思春期1は「23時以降」が6割以上(63.8%)となっており、就寝時間については年齢とともに遅くなっていく傾向にある。
- ・『起床時間』と『朝食摂取』のクロス集計については、学齢期及び思春期1ともに起床時間に関わらず、毎日～週4回食べるが多くなっている。

### ウ 食生活について

- ・『朝食を食べているか』については、学齢期及び思春期1ともに約2割が毎日朝食を食べていない結果となっている。朝食を食べない理由としては「食欲がない」「食べる時間がない」が高い割合を占めている。
- ・『家の人と一緒に夕食を食べているか』については、「毎日食べる」が学齢期では75.9%なのに対し、思春期1は62.3%となっており、年齢が上がるにつれて学習塾や部活動などが関係していることも考えられる。
- ・『野菜の摂取』については、「1日3回食べる」と回答した人は学齢期は25%、思春期1は21.1%となっている。

- ・『摂取頻度の高い飲料や食品』については、「水・お茶・麦茶」と回答している人が最も多い結果となっている。その他で「スポーツ飲料・ジュース・アイス・スナック菓子類」と回答した人が約4~5割となっており、この4品目に関しては、学齢期よりも思春期1の方が高い割合となっている。

## エ 食育について

- ・『食事が楽しみか』については、学齢期及び思春期1ともに、食事は楽しみであると感じている人が約9割を占めている。
- ・『食育の実践』については、「あいさつ」が学齢期64.1%に対し、思春期1は49.4%と低い傾向にある。また、「よく噛んで食べる」「家族と一緒に食事づくり」に関しても、学齢期と比較すると思春期1の減少が大きく、反対に「気にしていない」が学齢期は8.1%、思春期1は17.6%と食育の実践の関心度が低くなっている。

## オ 休養・こころの健康について

- ・『つらいと覚えることがあるか』については、「とても覚える」「まあまあ覚える」と回答した人が学齢期43.9%、思春期1で56.3%となっており、思春期1が学齢期に比べ高くなっている。
- ・『どんなことでつらいと覚えるか』については、「勉強」が学齢期で37.5%、思春期1で57.5%と、ともに最も高くなっている。
- ・『相談できる相手はいるか』については、「いない」「あまりいない」の割合は学齢期が19.5%、思春期1が17.1%で約2割の人が相談できる相手があまりいない結果となっている。
- ・『平日1日のゲーム時間』については、学齢期及び思春期1ともに1時間以上するという回答が6割以上となっている。
- ・『携帯やスマートフォンの使い方』について「守っていないまたは約束はない」と回答した人は、学齢期では16.5%、思春期1では23.6%と年齢が上がるにつれて増加傾向にある。

## カ 歯の健康について

- ・『歯の健康について気をつけていること』については、「歯みがきをする」が最も多く、学齢期で85.6%、思春期1で91.0%となっており、次いで「よく噛む」「むし歯があったら治療に行く」となっている。

## キ タバコについて

- ・『家の人がタバコを吸っているか』については、「吸う」と回答した人は約5割を占めている。家庭等での受動喫煙の危険もあり、学校での禁煙教育のほか受動喫煙防止のための取り組みが必要と思われる。
- ・『お酒を飲んでみたいか』については、思春期1のみの質問であるが、「飲んでみたいと思うことがある」「飲んでみたい」と回答した人は3割を占めている。

### ③ 思春期2 調査結果のまとめ

## ア あなた自身のことについて

- ・『性別』については、「男子」が37.2%、「女子」が62.2%となっており、女子からの回答比率が高くなっている。
- ・『身長と体重』については、「普通」が70.7%と最も高い割合となっている。「低体重」と「肥満」を比較すると、「低体重」の割合が肥満の割合を上回る15.2%となっている。

## イ 健康状態・健康意識について

- ・『自分を健康だと思うか』については、「とても健康」「まあまあ健康」と健康であると感じている人が約9割(86.6%)を占めており、ふだんの自分の体調に不調を感じている人の割合は低い結果となっている。
- ・『起床時間』『就寝時間』については、「6時30分前」に起きる割合が4割以上(42.7%)、「23時以降」が6割以上(64.6%)と多くなっており、睡眠時間の確保が課題と考えられる。
- ・『身長と体重(BMI)』については、7割以上が「普通」であるのに、「体重を減らしたい」と回答している人が5割以上となっている。
- ・『エイズ・性感染症』については、エイズは「名前も意味も知っている」が60.4%、性感染症は「名前も意味も知っている」が65.2%とどちらも6割以上となっている。
- ・『起床時間』と『朝食摂取』のクロス集計については、起床時間が遅くなるにつれて、朝食摂取の頻度が少なくなる傾向にある。

## ウ 食生活について

- ・『朝食を食べているか』については、「毎日食べる」の割合は78.0%、「家の人と一緒に食べる」は85.4%となっている。
- ・『朝食を食べない理由』としては「食べる時間がない」が最も多く、次いで「食欲がないから」「食べる習慣がない」となっている。
- ・『家の人と夕食を食べているか』について、「毎日食べる」が50.6%で約半数となっている。

- ・『1日3食の摂取』については、「3食食べている」が77.4%と最も多く、「2食になることが多い」「1食になることが多い」と回答した人は22.5%となっている。
- ・『野菜の摂取』について、「1日1回」「ほとんど食べない」と回答した人は32.9%となっており、野菜不足が考えられる。
- ・『摂取頻度の高い飲料や食品』については、「水・お茶・麦茶」と回答している人が最も多い結果となっている。その他で「ジュース・アイス・スナック菓子類」と回答した人が約3~4割となっている。

## エ 食育・地産地消について

- ・『食事が楽しみか』については、「とても楽しみ」「まあまあ楽しみ」が約9割(90.2%)を占めており、ほとんどの回答者が楽しみであると感じている。
- ・『食育の実践』については「あいさつ」「食事のマナー」が約7割に対し、「気にしていない」が1割強となっている。
- ・『食育という言葉や意味を知っているか』については、「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は約5割となっている。
- ・『地産地消』については、「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、7割となっている。

## オ 運動について

- ・『運動が好きか』については、「好き」「まあまあ好き」が約8割を占めている。
- ・『体育以外に定期的な運動をしているか』については、「していない」が52.4%となっており、理由としては「時間がない」「運動するきっかけがない」「疲れている」が多くなっている。

## カ 休養・こころの健康について

- ・『家は落ち着けるか』については、「落ち着ける」「まあまあ落ち着ける」が94.5%となっており、家を落ち着ける場所だと感じている人の割合が高くなっている。
- ・『つらいと覚えることがあるか』については、「とても感じる」「まあまあ感じる」で5割以上(56.1%)となっており、『つらいと覚える理由』は「勉強」「学校」がともに4割となっている。
- ・『相談できる人はいるか』では、「友達」「家の人」が7割以上となっている。
- ・『つらい』と『起床時間』のクロス集計については、「つらいと覚える」と回答している人は「感じない」と回答している人に比べて、起床時間が遅い傾向になっている。
- ・『ゲーム時間』と『体格』のクロス集計については、どの時間区分においても普通体重が最も多くなっているが、ゲーム時間が長い方が肥満の割合が高くなっている。



## キ 歯の健康について

- ・『歯みがきの頻度』については、「毎食後みがく」「1日1～2回みがく」が96.3%となっている。
- ・『歯の健康について気をつけていること』については、「歯みがきをする」が92.7%となっている。

## ク 喫煙について

- ・『家の人の喫煙の有無』については、「吸わない」が66.5%、「吸う」が33.5%となっており、吸わない家庭が6割以上となっている。
- ・自身が『タバコを吸いたいと思うか』については、96.3%が「思わない」と回答している。
- ・『受動喫煙をしてしまった場所』については、「飲食店」59.1%、「路上」54.3%が5割以上となっている。
- ・『お酒を飲んでみたいと思いますか』については、「思う」が64.0%で喫煙とは反対に、飲酒願望がある人が多い結果となっている。

### ④ 青年期・中年期・高齢期調査結果のまとめ

## ア あなた自身のことについて

- ・『現在一緒にお住まいの方』については、青年期は「父・母」が多く、中年期及び高齢期については「配偶者」が多くなっている。
- ・『職業』については青年期及び中年期については「会社員・公務員」「パート・アルバイト」、高齢期では「無職」「専業主婦」が7割以上を占めている。
- ・『身長と体重 (BMI)』については、女性より男性の方がBMIが25以上の肥満と判定された方の割合が高い傾向にあり、男女ともに中年期以降の肥満度が高くなっている。

## イ 健康状態・健康意識について

- ・『自分の健康に気を配っているか』について、「とても気を配っている」「気を配っている」と回答した人の割合は、年齢層が上がるにつれて高くなっており、高齢期では約9割を占めている。年齢層が上がるとともに健康への意識が高くなっていると考えられる。
- ・『健康づくりのための実践』についてはすべての年齢層において「食生活に注意する」と回答した人が6割以上を占めている。また「定期的に健康診査を受ける」については、青年期は他の年齢層と比較して低い状況となっている。
- ・『健康診断の受診』について、すべての年代において7割以上の人が受診している。『健康診断を受診していない人の職業』では、青年期及び中年期では「パート・アルバイト」

「専業主婦」が合わせて5~6割となっている。

- ・『職業別の健康診断の受診』については、「会社員・公務員」はすべての年齢層において約9割が受診している。「パート・アルバイト」は青年期では5割、中年期及び高齢期では7割が受診しており、青年期でやや低くなっている。「専業主婦」は青年期で低い状況となっており、9割以上が受診していない。
- ・『健康診断を受けた各項目』については、「健康診査」がすべての年齢層において8~9割となっている。「子宮頸がん」「乳がん」については中年期が約5割と他の年齢層と比較し高くなっている。「胃がん」「結核・肺がん」「大腸がん」については青年期では1割以下だが、中年期・高齢期では3~4割と高くなっている。がん検診については、青年期は他の年齢層と比較して受診者の割合が低い傾向にある。
- ・健康診断を受けていないと回答した人の『健診を受けない主な理由』としては高齢期では「通院している」が他の年齢層よりも高く5割を占めている。また、すべての年齢層において「受けるのが面倒」が2割程度となっている。青年期では「その他」が約3割となっており、そのうち半数は「妊娠・出産・育児のため」という意見だった。
- ・『血压』については、「Ⅰ度高血压」「Ⅱ度高血压」「Ⅲ度高血压」は青年期では0.8%、中年期では5.0%、高齢期では4.6%となっており、中年期から増加傾向にある。青年期については、無回答が6割を占めており、自分の血压について把握していない人が多いと考えられる。
- ・『治療中の病気』については「高血圧」「脂質異常」「糖尿病」「目の病気」が中年期から増加傾向にあるが、その中でも「高血圧」は中年期から急増し、高齢期では4割を占めている。

## ウ 食生活について

- ・『1日3食の摂取』について、「3食食べている」と回答した人は、各年齢層において6割以上となっているが、「2食になることが多い」「1食になることが多い」と回答した人は青年期で34.7%、中年期で27.2%、高齢期で16.3%と青年期が最も高い結果となっている。
- ・『朝食の摂取頻度』について、「毎日食べる」が青年期で約6割(58.6%)、中年期で約7割(73.6%)、高齢期で約9割(86.2%)となっており、年齢層が低いほど朝食を食べている割合が低くなっている。朝食を食べない理由としては、青年期では「食べる時間がない」が5割、中年期と高齢期では「食べる習慣がない」が5割以上となり朝食の重要性についての啓発を強化していくことが必要と思われる。
- ・『食生活の状況』について、青年期及び中年期で「惣菜や加工食品を1日1回以上とる」「食べるのが早い」「あまり噛まない」「脂っこいものを好む」などの項目が高い結果となった。中でも特に青年期では他の年齢層と比較して「主食・主菜・副菜を揃えてバランスよく食べる」が40.2%と低く、また「毎日甘い飲み物を飲む」も37.7%と高い結果となっている。

- ・『野菜の摂取』は、1日に食べている野菜料理の皿数にすると「1～2皿」が青年期 68.2%、中年期 59.8%、高齢期 54.4%と約半数を占める結果となり、各年齢層において野菜不足と思われる、食生活の状況とあわせて若い世代からの望ましい食習慣の実践が重要と思われる。

## エ 食育・地産地消について

- ・『食事は楽しみか』について、「とても楽しみ」「まあまあ楽しみ」と回答した人の割合は各年齢層において約9割を占める結果となっている。
- ・『夕食は主にどなたと食べるか』について、「家族」と回答した人の割合が最も高く6割以上を占める結果となっている。
- ・『食育の言葉や意味』について、「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は各年齢層において約5割を占めている。
- ・『地産地消』について、「地産地消という言葉やその意味を知っている」と回答した人の割合は各年齢層において約6～7割となっている。
- ・『食育の実践』について、青年期では「食事のあいさつ」「食事のマナー」、中年期及び高齢期では「塩分を取り過ぎない」「栄養バランスのとれた食事」が高い結果となり、青年期では食事のマナー、中年期及び高齢期では健康を意識した項目が高い結果となっている。

## オ 運動について

- ・『運動頻度』について、『週2日以上運動している人の割合』は、青年期は20.9%、中年期28.9%、高齢期53.2%となっており、年齢層が上がるにつれて高くなっている。
- ・『運動しない理由』としては、青年期及び中年期では「仕事や家事で疲れている」「時間がない」が5割以上を占めている。
- ・『運動する仲間がいない』と回答した人の割合は、すべての年齢層において6割以上を占めている。働き盛りの世代については、仕事や家事が忙しいなか運動を継続して実施していくためには、仲間づくりも大切な要素であると思われる。

## カ 休養・こころの健康について

- ・『睡眠時間』について、すべての年齢層において「5～6時間」と回答した人が約5割で最も高くなっている。「5時間未満」と回答した人は、青年期及び中年期では1割以上を占めており、高齢期に比べ高くなっている。
- ・『ストレス』を「まあまあ感じている」「とても感じている」と回答した人の割合は、青年期及び中年期では約7割、高齢期では4割となっている。ストレスを感じる理由としては青年期及び中年期では「学校・仕事」「人間関係」と回答した人が4割以上を占めている。
- ・『生きることがつらいと感じることがあるか』では「ない」と回答した人は、すべての年齢層において5割以上を占めており、年齢層が上がるにつれて高くなっている。

- ・『悩みを相談できる人』については、すべての年齢層において「家族」「友人」が多い。
- ・『趣味の活動の有無』と『生きがい』のクロス集計では、中年期及び高齢期では、趣味の活動をしていない人と比較して、趣味の活動をしている人の方が生きがいを感じている割合が高くなっている。
- ・『幸福感』については、すべての年齢層において、「幸福である」「まあまあ幸福である」と回答した人は約 8 割を占めている。『生きがい』と『幸福感』のクロス集計では、すべての年齢層において、生きがいを感じていない人と比較し、生きがいを感じている人の方が幸福感を感じている割合が高くなっている。

## キ 歯の健康について

- ・『かかりつけ歯科医』について「いる」と回答した人は、青年期では 5 割、中年期及び高齢期では 7 割となっており、青年期では他の年齢層と比較し低くなっている。
- ・『歯科検診の受診』について、ここ 1 年以内に歯科検診を「受けている」と回答した人は、青年期では 4 割、中年期及び高齢期では 5 割となっており、青年期では他の年齢層と比較し低くなっている。
- ・『6424 運動』について、青年期及び中年期で「知らない」と回答した人は 6 割、『8020 運動』について、高齢期で「知らない」と回答した人は 5 割となっている。
- ・『歯の本数』について、青年期では「28～32 本」が 74.1%、中年期では「24 本以上」が 62.6%、高齢期では「20 本以上」が 40.2%となっている。
- ・『歯科検診の受診』と『歯の残数』のクロス集計では、青年期では歯科検診の受診の有無に関係なく「28～32 本」が最も多くなっているが、中年期・高齢期では歯科検診を受診した人の方が受診していない人と比較し歯の残数が多い傾向にある。
- ・『歯科検診の受診』と『歯間部清掃用具』のクロス集計では、すべての年齢層において歯科検診を受診した人の方が、歯間部清掃用具を使用している割合が高くなっており、定期的に歯科検診を受診することで歯の健康について関心を持ち、健康づくりのための実践につながっていると考えられる。
- ・『歯みがき』について、1 日 1 回以上歯みがきをしている人はすべての年齢層において 9 割を占めている。『歯間部清掃用具』について「時々使用する」「使用する」と回答した人は中年期が最も多く、6 割を占めている。
- ・『歯周病の自覚症状』について、青年期で自覚症状がある人は 4 割以上を占めており中年期と同じ割合となっている。歯周病対策のほか、かかりつけ歯科医や歯科検診の受診も含め、若い世代からの歯科保健対策が重要であると考えられる。

## ク 喫煙・飲酒について

- ・『喫煙』について、すべての年齢層において「吸わない」「以前は吸っていたがやめた」と回答した人は約 8 割となっている。タバコを吸っている男性の割合は、中年期が最も高く 31.6%となっている。タバコを吸っている女性の割合は青年期・中年期ではともに 13.2%と高齢期と比較して高くなっている。
- ・『受動喫煙の場所』について、すべての年齢層において「飲食店」が最も多く、次いで

「路上」「家庭」「職場」が多くなっている。家庭以外での受動喫煙の機会も多く、健康への影響はあると思われる。

- ・『喫煙』と『歯の残数』のクロス集計について、青年期では喫煙による影響はあまり見られないが、中年期及び高齢期ではタバコを吸わない人と比較し、吸っている人の方が歯の残数が少ない傾向が見られた。
- ・『飲酒』について、お酒を「飲む」と回答した人は、中年期が最も多く5割以上となっている。
- ・『飲酒量』について、年齢層が上がるにつれて「1合未満」「1～2合未満」と回答した人の割合が男女ともに高くなっている。2合以上飲む男性の割合は、他の年齢層と比較して中年期が最も高く36%となっており、またそのうち3合以上飲む人は8.1%となっている。1合以上飲む女性の割合はすべての年齢層において約3割を占めている。

## 2 計画策定経過

月 日	協議会・委員会等	主な内容
平成30年 9月～10月	健康づくりに関する 市民健康意識調査の実施	無作為抽出 総数 5,646件 うち回収数 2,952件 (回収率 52.3%)
令和元年 5月16日(木)	茨城県立健康プラザ 「地域診断相談事業」	第3次計画策定についての助言
6月24日(月)	第1回庁内ワーキング委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次計画の最終評価及び市民健康意識調査の説明</li> <li>第3次計画の策定について概要/スケジュール説明</li> </ul>
7月17日(水)	第1回健康づくり推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次計画の最終評価及び市民健康意識調査の説明</li> <li>第3次計画の策定について概要/スケジュール説明</li> </ul>
9月12日(木)	茨城県立健康プラザ 「地域診断相談事業」	第3次計画素案についての助言
10月7日(月)	第2回庁内ワーキング委員会	第3次計画素案の検討
11月13日(水)	第2回健康づくり推進協議会	第3次計画素案の検討
11月21日(木)	茨城県立健康プラザ 「地域診断相談事業」	第3次計画最終案についての助言
12月6日(金) ～25日(水)	パブリックコメント	素案を公表し、広く市民の意見を募集
令和2年 1月14日(火)	第3回庁内ワーキング委員会	第3次計画最終案の検討
1月22日(水)	第3回健康づくり推進協議会	第3次計画最終案の提案/承認
2月		印刷製本
3月中旬		第3次計画策定/公表

### 3 古河市健康づくり推進協議会

#### (1) 古河市健康づくり推進協議会規則

(設置)

第1条 市民の総合的な健康づくりを推進するため、古河市健康づくり推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 協議会は、次に掲げる事項を協議するものとする。

- (1) 保健衛生施設の設置及び運営に関すること。
- (2) 地域医療対策に関すること。
- (3) 各種健康診査の実施に関すること。
- (4) 保健衛生に関する地区組織の育成に関すること。
- (5) 健康教育に関すること。
- (6) その他健康づくりに関すること。

(組織)

第3条 協議会は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者の中から市長が委嘱する。

- (1) 茨城県古河保健所所長
- (2) 古河市議会議員
- (3) 古河市医師会の代表者
- (4) 古河市歯科医師会の代表者
- (5) 市の国民健康保険事業の運営に関する協議会の代表者
- (6) 古河市学校保健会の代表者
- (7) 古河市体育協会会長
- (8) 地区長の代表者
- (9) 古河市食生活改善推進協議会会長
- (10) 古河市健康づくり協力員会会長
- (11) 古河市老人クラブ連合会会長
- (12) 学識を有する者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により委嘱された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、委嘱されたときの要件を欠いたときは、その職を失うものとする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長は、委員の互選による。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、委員の中から会長が指名する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を行う。

(会議)

第6条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、その議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 協議会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を求めることができる。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、健康推進主管課において処理する。

(補則)

第8条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営等に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。

(総和町健康づくり推進協議会規則及び三和町健康づくり推進協議会規則の廃止)

2 総和町健康づくり推進協議会規則（昭和54年総和町規則第10号）及び三和町健康づくり推進協議会規則（平成3年三和町規則第1号）は、廃止する。

附 則（平成22年規則第1号）

この規則は、平成22年1月29日から施行する。

附 則（平成30年規則第44号）

この規則は、公布の日から施行する。



## (2) 健康づくり推進協議会委員名簿

(敬称略)

所属・役職名	氏名
茨城県古河保健所所長	大谷 幹伸
古河市議会議員	靄見 久美子
古河市医師会会長	秋葉 和敬
古河市歯科医師会会長	橋本 正一
古河市の国民健康保険事業の運営に関する協議会会長	鈴木 隆
古河市学校保健会副会長	沼田 傳
古河市体育協会会長	黒沢 豊
古河市行政自治会第2地区地区長	綿引 正衛
古河市行政自治会第9地区地区長	長濱 忍
古河市行政自治会第16地区地区長	梅津 信男
古河市食生活改善推進協議会会長	高橋 とみ子
古河市健康づくり協力員会会長	鈴木 悦子
古河市老人クラブ連合会会長	那須 和弥

### 【スーパーバイザー】

聖徳大学看護学部看護学科	栗盛 須雅子 教授
--------------	-----------

## 4 第3次古河市健康づくり基本計画庁内ワーキング委員会

### (1) 第3次古河市健康づくり基本計画庁内ワーキング委員会設置要綱

(設置)

第1条 健康増進法（平成14年法律第103号）第8条第2項に規定する市町村健康増進計画、食育基本法（平成17年法律第63号）第18条第1項に規定する市町村食育推進計画、茨城県歯と口腔の健康づくり8020・6424推進条例（平成22年茨城県条例第37号）第10条に規定する市町村歯科保健計画及び母子保健計画策定指針（平成26年6月17日付け雇児発0617第1号厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知）による母子保健計画として第3次古河市健康づくり基本計画（以下「計画」という。）を策定するため、第3次古河市健康づくり基本計画庁内ワーキング委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 計画の策定のための資料の収集、調査、検討等に関すること。
- (2) 計画の策定のための総合調整に関すること。
- (3) その他計画の策定に関し必要なこと。

2 委員会は、前項の規定に基づき調査、検討等をした結果を古河市健康づくり推進協議会規則（平成18年規則第54号）第1条に規定する古河市健康づくり推進協議会に報告するものとする。

(組織)

第3条 委員会は、健康福祉部長及び別表に掲げる職にある者を委員として組織する。

- 2 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は健康福祉部長をもって充て、副委員長は委員の中から委員長が指名する。
- 3 委員長は、委員会を掌理し、委員会の会議（以下「会議」という。）の議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は、平成31年4月1日から平成32年3月31日までとする。

(会議)

第5条 会議は、委員長が必要に応じて招集する。

- 2 委員長は、必要と認めるときは、会議に委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、健康づくり課において処理する。

(補則)

第7条 この告示に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この告示は、平成31年4月1日から施行する。  
(この告示の失効)
- 2 この告示は、平成32年3月31日限り、その効力を失う。

別表 (第3条関係)

国保年金課長、福祉総務課長、高齢福祉課長、子ども福祉課長、健康づくり課長、農政課長、教育総務課長、指導課長、学校給食課長、生涯学習課長、スポーツ振興課長